

厳しい時代に向けた協調を

業界に利益生む仕組みを作る

フローリング協会11月例会

フローリング協会（小黒邦雄会長）の12年11月例会が9日、東京都内で開催された。冒頭のあいさつで小黒会長は「日本国内では消費税が話題となつてはいるが、過去の例からも増税後には景気が良くなったことはないと思う。よつて来年は厳しい年になると思う」との見通しを示した。

小黒会長は引き続き、「東北の復興関連も請負単価が安く入札できないと聞いている。足元では施工関連各社も相当苦しんだ決算を出しており、下請けの職人にも支払い延期を申し出ているという事例もある。だからこそ、まずは無駄な競争はせず、協調が大切だ。仕事を取れば良



小黒 会長

い」という風潮では仕事は忙しく、売上げは伸びても利益が上がらない。この業界に円でも多く落としてもらうような仕組みを作りたいので協力をお願いしたい」と話した。会は新入会員のイーセルの紹介、社会保険未加入問題への対応に關しての呼びかけ、各部会の報告と進行した。

各部会の報告は次のとおり。「あらゆる工事が遅れ気味で工程は読みにくい。ゼネコンから労働の応援要請が言われるが、予定と違つた工程が組まれてしまうため苦しい状況だ。請負価格も上がつていなかで、職人手間が上がり、パーティクルボードの不足感も続いているなど、現実には思つたように利益が伸びない。来年に向けての仕事も多いが、単価が見合わない。PB、職人手間の上昇が元請けに今ひとつ浸透していかないようだ」（施工流通部会）。

「先日、床製造複合部会」。「PBの不足のお願

ンテナンスを中心とした勉強会を開いた。また、来年に建築工事の標準仕様書が改定されるが、その案を入手し現在意見を募つている」（床製造無垢部会）。

「各メーカーで集まつてクレーム削減のための情報交換の場を設けた。特にマンションは入居者の意識の違いもあり、フローリングは工業製品と思われていく向きがあるため、それを周知する必要性が聞かれた。来年にかけては、フローリングの出荷がタイトになつてくるので納期の変更などの把握に努めていきたい」（床製造複合部会）。

いとして協会発信と日本乾式遮音二重床工業会双方の発信による文書を作成した。PB関連については、これからの需要期を考えると現場への供給が改善されにくい状況だ。メーカーの置き床用のPBを製造するメーカーは、これ以上の増産は難しく11、12月に現場への納入遅れが出てくる可能性もある。改めて早めの現場納入、納入確定をお願いしたい。鋼製床関係では、東北地方の学校施設の復旧が今後、十分見込まれるとなつてい

が、まだ工事は進んでいない。作業者の現場での人員減少が顕著となつている（置床・鋼製床部会）。

「2度の部会を開いて、PB不足、職人不足の問題を取り上げた。PBメーカーの供給量は増えているが、秋の需要期に向けて各メーカーが在庫を積み増さないといけない状況のなかで在庫を切り詰めて出荷していたので、今後工期の変更などがあると対応が難しくなつてきている。施工会社や置き床メーカー、PBメーカーと連携しながら現場の状況を逐次把握しながら安定供給に努めていきたい」（建販商社部会）。